

白いあじさい

まるこ

白いあじさいが咲いた
通勤途中に

目をつむったあじさいが
涼しげにわたしを送り出す

白いあじさいが咲いている
帰宅途中に

わたしの知らない家の鉢で
夕陽を浴びている

彼らは家の主人と
どんな会話をするのだろう

白いあじさいと出逢う

蒸し暑い朝に

葉はみずみずしく

花びらは真珠のようで

凜としてこちらを眺めている

わたしは微笑む

気品あるあじさいたちに

いつてきますと足を止める

白いあじさいが微笑んでいる

またある日の帰り道で

複数はみずいろがかった光を携え

一輪はももいろがかった愛を宿して

みんなが手をつなぎ

わたしに微笑んでくれる

しずかなお喋りを楽しんで

彼らは徐々に姿を変えていった

彼らはまたあじさいになった

そしてわたしの構成要素になった

わたしもかれらの根になり茎になり花になった